

各専攻等の各段階における到達目標

(1) 文学研究科国文学専攻（中専免（国語）・高専免（国語））

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	<p>一種免許取得の際の自己の教職課程履修について振り返りをする。教科に関する科目、教職に関する科目などの学びが十分であったか。不十分な点があるなら、それを今後2年間で補うために、どのような学修が必要か、計画を立てる。特に、国語の教科に関する科目については、特論や演習の履修選択に際し、修士論文を視野に入れつつも、教師として不足する点を十分に補えるよう考慮し、国文学の各時代や国語学の各領域についても極端な偏りの無いように配慮する。</p> <p>近い将来に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、特論の受講の際に、国語学・国文学の教科専門性を可能な限り引き上げるとともに、演習の履修に際しては、自らが教壇に立つ授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とし、また議論にも積極的に参加して言語運用能力を向上させて、実践的な授業力を高めていく。</p>
	後期	<p>前期に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、国語の教科に関する科目を選択受講して、国語科の教科専門性を高めていく。1年次前期の学修を通じて、前期にたてた計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>近い将来に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、特論の受講の際に、国語科の教科専門性を可能な限り引き上げる一方で、演習の履修に際しては、教科専門性に加えて、授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とも捉え、また議論にも積極的に参加して、実践的な言語運用能力を高め、授業力を磨いていく。</p>
2 年次	前期	<p>前年度に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、国語の教科に関する科目を選択履修して、国語科の教科専門性を高めていく。1年次の学修の振り返りを通じて、入学時にたてた計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>1年後に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、特論の受講の際に、国語科の教科専門性を可能な限り引き上げるとともに、演習の履修に際しては、教科専門性に加え、授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とも捉え、また議論にも積極的に参加して、実践的な言語運用能力を高め、授業力をさらに磨いていく。</p>
	後期	<p>引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、国語の教科に関する科目を選択履修して、国語科の教科専門性を高めていく。教員になった1年目から教師としての諸能力を発揮できるとともに、その能力を生涯にわたり伸ばし続けることのできる教師として巣立つべく、残り半期となった学修計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>修士論文執筆の仕上げ作業を通して、自らの国語科の教科専門性を更に高めていく。</p> <p>特に、指導教員から論文指導を受ける際には、謙虚に傾聴するだけでなく自らが深い問題意識をもって能動的に議論に臨み、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力など、国語科の教科専門性以外の部分での実践的な教師力の仕上げを図る。</p> <p>自分の授業を受けることになる生徒に対して恥じることのない力を身につけて課程を修了する。</p>

各専攻等の各段階における到達目標

(2) 文学研究科英文学専攻（中専免（英語）・高専免（英語））

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	<p>一種免許取得の際の自己の教職課程履修について振り返りをする。教科に関する科目、教職に関する科目などの学びが十分であったか。不十分な点があるなら、それを今後 2 年間で補うために、どのような学修が必要か、計画を立てる。特に、外国語「英語」の教科に関する科目については、特論や演習の履修選択に際し、修士論文を視野に入れつつも、教師として不足する点を十分に補えるよう考慮し、英文学、米文学、英語学、英語教育の各分野についても極端な偏りの無いように配慮する。</p> <p>近い将来に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、特論や演習の受講の際に、外国語「英語」の教科専門性を可能な限り引き上げるとともに、自らが教壇に立つ授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とし、また議論にも積極的に参加して言語運用能力を向上させて、実践的な授業力を高めていく。</p>
	後期	<p>前期に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、外国語「英語」の教職及び教科に関する科目を選択受講して、外国語「英語」の教科専門性を高めていく。1 年次前期の学修を通じて、前期に立てた計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>近い将来に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、特論や演習の受講の際に、外国語「英語」の教科専門性を可能な限り引き上げるとともに、教科専門性に加えて、授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とも捉え、また議論にも積極的に参加して、実践的な言語運用能力を高め、授業力を磨いていく。</p>
2 年次	前期	<p>前年度に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、外国語「英語」の教職及び教科に関する科目を選択履修して、外国語「英語」の教科専門性を高めていく。1 年次の学修の振り返りを通じて、入学時に立てた計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>きわめて近い将来に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、特論や演習の受講の際に、外国語「英語」の教科専門性を可能な限り引き上げるとともに、教科専門性に加え、授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とも捉え、また議論にも積極的に参加して、実践的な言語運用能力を高め、授業力をさらに磨いていく。</p>
	後期	<p>引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、外国語「英語」の教職及び教科に関する科目を選択履修して、外国語「英語」の教科専門性を高めていく。教員になった 1 年目から教師としての諸能力を発揮できるとともに、その能力を生涯にわたり伸ばし続けることのできる教師として巣立つべく、残り半期となった学修計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>修士論文執筆の仕上げ作業を通して、自らの外国語「英語」の教科専門性を更に高めていく。</p> <p>特に、指導教員から論文指導を受ける際には、謙虚に傾聴するだけでなく自らが深い問題意識をもって能動的に議論に臨み、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力など、外国語「英語」の教科専門性以外の部分での実践的な教師力の仕上げを図る。</p>

		自分の授業を受けることになる生徒に対して恥じることのない力を身につけて課程を修了する。
--	--	---

各専攻等の各段階における到達目標

(3) 文学研究科史学専攻（中専免（社会）・高専免（地理歴史））

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	<p>一種免許取得の際の自己の教職課程履修について振り返りをする。教科に関する科目、教職に関する科目などの学びが十分であったか。不十分な点があるなら、それを今後2年間で補うために、どのような学修が必要か、計画を立てる。特に、地理歴史及び社会の教科に関する科目については、特論や演習の履修選択に際し、修士論文を視野に入れつつも、自らの不足する点を十分に補えるよう考慮する。</p> <p>近い将来に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、特論の受講の際に、地理歴史及び社会の教科専門性を可能な限り引き上げるとともに、演習の履修に際しては、自らが教壇に立つ授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とし、また議論にも積極的に参加して言語運用能力を向上させて、実践的な授業力を高めていく。</p>
	後期	<p>前期に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、地理歴史及び社会の教科に関する科目を選択受講して、地理歴史及び社会科の教科専門性を高めていく。1年次前期の学修を通じて、前期にたてた計画について修正するべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>近い将来に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、特論の受講の際に、地理歴史及び社会の教科専門性を可能な限り引き上げるとともに、演習の履修に際しては、教科専門性に加えて、授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とも捉え、また議論にも積極的に参加して、実践的な言語運用能力を高め、授業力を磨いていく。</p>
2 年次	前期	<p>前年度に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、地理歴史及び社会の教科に関する科目を選択履修して、地理歴史及び社会科の教科専門性を高めていく。1年次の学修の振り返りを通じて、入学時にたてた計画について修正するべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>1年後に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、特論の受講の際に、地理歴史及び社会科の教科専門性を可能な限り引き上げるとともに、演習の履修に際しては、教科専門性に加え、授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とも捉え、また議論にも積極的に参加して、実践的な言語運用能力を高め、授業力をさらに磨いていく。</p>
	後期	<p>引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、地理歴史及び社会の教科に関する科目を選択履修して、地理歴史及び社会科の教科専門性を高めていく。教員になった1年目から教師としての諸能力を発揮できるとともに、その能力を生涯にわたり伸ばし続けることのできる教師として巣立つべく、残り半期となった学修計画について修正するべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>修士論文執筆の仕上げ作業を通して、自らの地理歴史及び社会科の教科専門性を更に高めていく。</p>

		<p>特に、指導教員から論文指導を受ける際には、謙虚に傾聴するだけでなく自らが深い問題意識をもって能動的に議論に臨み、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力など、地理歴史及び社会科の教科専門性以外の部分での実践的な教師力の上げを図る。</p> <p>自分の授業を受けることになる生徒に対して恥じることのない力を身につけて課程を修了する。</p>
--	--	--

各専攻等の各段階における到達目標

(4) 発達教育学研究科教育学専攻

◇幼専免

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	<p>一種免許取得の際の自己の教職課程履修について振り返りをする。教科に関する科目、教職に関する科目などが、十分な学びであったか。不十分な点があるなら、それを今後2年間で補うために、どのような学修が必要か、計画を立てる。特に、教科に関する科目について今一度自らを省みて、もし学力的な不安がある場合には、修了までの間に、十二分な学力を修得できるように配慮する。教職に関する科目も、計画的に履修する。</p> <p>近い将来に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、特論の受講の際に、教科専門性を可能な限り引き上げるとともに、演習の履修に際しては、自らが教壇に立つ授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とし、また議論にも積極的に参加して言語運用能力を向上させて、実践的な授業力を高めていく。</p>
	後期	<p>前期に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、教科専門性を高めていく。1年次前期の学修を通じて、前期にたてた計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>近い将来に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、特論の受講の際に、一種免許取得時に不足していた部分を可能な限り引き上げる。演習の履修に際しては、教科専門性に加えて、授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とも捉え、また議論にも積極的に参加して、実践的な言語運用能力を高め、授業力を磨いていく。</p>
2 年次	前期	<p>前年度に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、教科専門性を高めていく。1年次の学修の振り返りを通じて、入学時にたてた計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>1年後に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、特論の受講の際に、一種免許取得時に不足していた部分を可能な限り引き上げる。演習の履修に際しては、教科専門性に加え、授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とも捉え、また議論にも積極的に参加して、実践的な言語運用能力を高め、授業力をさらに磨いていく。</p>
	後期	<p>引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、教科専門性を高めていく。教員になった1年目から教師としての諸能力を発揮できるとともに、その能力を生涯にわたり伸ばし続けることのできる教師として巣立つべく、残り半期となった学修計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p>

		<p>修士論文執筆の仕上げ作業において、特に指導教員から論文指導を受ける際には、謙虚に受けるだけでなく自らが深い問題意識をもって能動的に臨み、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力など、教科専門性以外の部分での実践的な教師力の仕上げを図る。</p> <p>自分の授業を受けることになる園児に対して恥じることのない力を身につけて課程を修了する。</p>
--	--	---

各専攻等の各段階における到達目標

(4) 発達教育学研究科教育学専攻

◇小専免

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	<p>一種免許取得の際の自己の教職課程履修について振り返りをする。教科に関する科目、教職に関する科目などが、十分な学びであったか。不十分な点があるなら、それを今後2年間で補うために、どのような学修が必要か、計画を立てる。特に、教科に関する科目について今一度自らを省みて、もし学力的な不安がある場合には、修了までの間に、十二分な学力を修得できるように配慮する。教職に関する科目も、計画的に履修する。</p> <p>近い将来に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、特論の受講の際に、一種免許取得時に不足していた部分を可能な限り引き上げるとともに、演習の履修に際しては、自らが教壇に立つ授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とし、また議論にも積極的に参加して言語運用能力を向上させて、実践的な授業力を高めていく。</p>
	後期	<p>前期に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、教科専門性を高めていく。1年次前期の学修を通じて、前期にたてた計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>近い将来に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、特論の受講の際に、一種免許取得時に不足していた部分を可能な限り引き上げる。演習の履修に際しては、教科専門性に加えて、授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とも捉え、また議論にも積極的に参加して、実践的な言語運用能力を高め、授業力を磨いていく。</p>
2 年次	前期	<p>前年度に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、教科専門性を高めていく。1年次の学修の振り返りを通じて、入学時にたてた計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>きわめて近い将来に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、特論の受講の際に、一種免許取得時に不足していた部分を可能な限り引き上げる。演習の履修に際しては、教科専門性に加え、授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とも捉え、また議論にも積極的に参加して、実践的な言語運用能力を高め、授業力をさらに磨いていく。</p>
	後期	<p>引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、教科専門性を高めていく。教員になった1年目から教師としての諸能力を発揮できるとともに、その能力を生涯にわたり伸ばし続けることのできる教師として巣立つべく、残り半期となった学修計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p>

		<p>修士論文執筆の仕上げ作業において、特に指導教員から論文指導を受ける際には、謙虚に受けるだけでなく自らが深い問題意識をもって能動的に臨み、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力など、教科専門性以外の部分での実践的な教師力の仕上げを図る。</p> <p>自分の授業を受けることになる生徒に対して恥じることのない力を身につけて課程を修了する。</p>
--	--	---

各専攻等の各段階における到達目標

(5) 発達教育学研究科表現文化専攻 音楽コース

◇中専免（音楽）・高専免（音楽）

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	<p>一種免許取得の際の自己の教職課程履修について振り返りをする。教科に関する科目、教職に関する科目などが、十分な学びであったか。不十分な点があるなら、それを今後2年間で補うために、どのような学修が必要か、計画を立てる。特に、統合を図る科目群や固有領域の進化をはかる科目群、中でも音楽の教科に関する科目については、特論や演習の履修選択に際し、修士論文を視野に入れつつも、教師として不足する点を十分に補えるよう考慮し、音楽表現や言語表現、造形表現、運動・舞踏の各領域についても極端な偏りの無いように配慮する。</p> <p>近い将来に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、特論の受講の際に、音楽表現や言語表現、造形表現、運動・舞踏の教科専門性を可能な限り引き上げるとともに、演習の履修に際しては、自らが教壇に立つ授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とし、また議論にも積極的に参加して言語運用能力を向上させて、実践的な授業力を高めていく。</p>
	後期	<p>前期に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、統合を図る科目群や固有領域の進化をはかる科目群、特に音楽の教科に関する科目を選択受講して、音楽表現や言語表現、造形表現、運動・舞踏の教科専門性を高めていく。1年次前期の学修を通じて、前期にたてた計画について修正するべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>近い将来に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、特論の受講の際に、音楽表現や言語表現、造形表現、運動・舞踏の教科専門性を可能な限り引き上げるとともに、演習の履修に際しては、教科専門性に加えて、授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とも捉え、また議論にも積極的に参加して、実践的な言語運用能力を高め、授業力をさらに磨いていく。</p>
2 年次	前期	<p>前年度に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、統合を図る科目群や固有領域の進化をはかる科目群、特に音楽の教科に関する科目を選択履修して、音楽表現や言語表現、造形表現、運動・舞踏の教科専門性を高めていく。1年次の学修の振り返りを通じて、入学時にたてた計画について修正するべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>1年後に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、特論の受講の際に、音楽表現や言語表現、造形表現、運動・舞踏の教科専門性を可能な限り引き上げるとともに、演</p>

		習の履修に際しては、教科専門性に加え、授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とも捉え、また議論にも積極的に参加して、実践的な言語運用能力を高め、授業力を磨いていく。
	後期	<p>引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、統合を図る科目群や固有領域の進化をはかる科目群、特に音楽の教科に関する科目を選択履修して、音楽表現や言語表現、造形表現、運動・舞踏の教科専門性を高めていく。教員になった1年目から教師としての諸能力を発揮できるとともに、その能力を生涯にわたり伸ばし続けることのできる教師として巣立つべく、残り半期となった学修計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>修士論文執筆の仕上げ作業を通して、自らの音楽表現や言語表現、造形表現、運動・舞踏の教科専門性を更に高めていく。</p> <p>特に、指導教員から論文指導を受ける際には、謙虚に受けるだけでなく自らが深い問題意識をもって能動的に臨み、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力など、音楽表現や言語表現、造形表現、運動・舞踏の教科専門性以外の部分での実践的な教師力の仕上げを図る。</p> <p>自分の授業を受けることになる生徒に対して恥じることのない力を身につけて課程を修了する。</p>

各専攻等の各段階における到達目標

(5) 発達教育学研究科表現文化専攻 初等教育コース

◇小専免

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	<p>一種免許取得の際の自己の教職課程履修について振り返りをする。教科に関する科目、教職に関する科目などが、十分な学びであったか。不十分な点があるなら、それを今後2年間で補うために、どのような学修が必要か、計画を立てる。特に、統合を図る科目群や固有領域の深化を図る科目群、特に教科に関する科目について、今一度自らを省みて、もし学力的な不安がある場合には、修了までの間に、十二分な学力を修得できるように配慮する。教職に関する科目も、計画的に履修する。</p> <p>近い将来に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、統合を図る科目群や固有領域の深化を図る科目群、特に教科に関する科目として指定された特論の受講の際に、音楽表現や言語表現、造形表現、運動・舞踏の教科専門性を可能な限り引き上げるとともに、演習の履修に際しては、自らが教壇に立つ授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とし、また議論にも積極的に参加して言語運用能力を向上させて、授業実践の基盤となる能力を高めていく。</p>
	後期	<p>前期に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、音楽表現や言語表現、造形表現、運動・舞踏の教科専門性を高めていく。1年次前期の学修を通じて、前期に立てた計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>近い将来に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、統合を図る科目群や固有領域の深化を図る科目群、特に教科に関する科目として指定された特論の受講の際に、一</p>

		種免許取得時に不足していた部分を可能な限り引き上げるとともに、演習の履修に際しては、教科専門性に加えて、授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とも捉え、また議論にも積極的に参加して、実践的な言語運用能力を高め、授業実践の基盤となる能力を磨いていく。
2 年次	前期	<p>前年度に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、音楽表現や言語表現、造形表現、運動・舞踊の教科専門性を高めていく。1 年次の学修の振り返りを通じて、入学時に立てた計画について修正するべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>1 年後に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、統合を図る科目群や固有領域の深化を図る科目群特に教科に関する科目として指定された特論の受講の際に、一種免許取得時に不足していた部分を可能な限り引き上げるとともに、演習の履修に際しては、教科専門性に加え、授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とも捉え、また議論にも積極的に参加して、実践的な言語運用能力を高め、授業実践の基盤となる能力をさらに磨いていく。</p>
	後期	<p>引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、音楽表現や言語表現、造形表現、運動・舞踊の教科専門性を高めていく。教員になった 1 年目から教師としての諸能力を発揮できるとともに、その能力を生涯にわたり伸ばし続けることのできる教師として巣立つべく、残り半期となった学修計画について修正するべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>修士論文執筆の仕上げ作業の際、特に指導教員から論文指導を受ける際には、謙虚に傾聴するだけでなく自らが深い問題意識をもって能動的に臨み、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力など、教科専門性以外の部分での実践的な教師力の仕上げを図る。</p> <p>自分の授業を受けることになる児童に対して恥じることのない力を身につけて課程を修了する。</p>

各専攻等の各段階における到達目標

(6) 発達教育学研究科児童学専攻（幼専免）

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	<p>一種免許取得の際の自己の教職課程履修について振り返りをする。教科に関する科目、教職に関する科目などが、十分な学びであったか。不十分な点があるなら、それを今後 2 年間で補うために、どのような学修が必要か、計画を立てる。特に、専攻固有科目については、特論や演習の履修選択に際し、修士論文を視野に入れつつも、教師として不足する点を十分に補えるよう考慮し、児童学の各領域についても極端な偏りの無いように配慮する。</p> <p>近い将来に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、専攻固有科目、特に教科に関する科目や教職に関する科目として指定された特論の受講の際に、一種免許取得時に不足していた部分を可能な限り引き上げるとともに、演習の履修に際しては、自らが教壇に立つ授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とし、また議論にも積極的に参加して言語運用能力を向上させて、実践的な授業力を高めていく。</p>

	後期	<p>前期に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、専攻固有科目、特に教科に関する科目や教職に関する科目として指定された特論を選択受講して、児童学の教科専門性を高めていく。1年次前期の学修を通じて、前期にたてた計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>近い将来に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、専攻固有科目、特に教科に関する科目や教職に関する科目として指定された特論の受講の際に、児童学の教科専門性を可能な限り引き上げる。演習の履修に際しては、教科専門性に加えて、授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とも捉え、また議論にも積極的に参加して、実践的な言語運用能力を高め、授業力を磨いていく。</p>
2年次	前期	<p>前年度に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、専攻固有科目、特に教科に関する科目や教職に関する科目として指定された特論を選択履修して、児童学の教科専門性を高めていく。1年次の学修の振り返りを通じて、入学時にたてた計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>きわめて近い将来に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、専攻固有科目、特に教科に関する科目や教職に関する科目として指定された特論の受講の際に、教科専門性を可能な限り引き上げるとともに、演習の履修に際しては、教科専門性に加え、授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とも捉え、また議論にも積極的に参加して、実践的な言語運用能力を高め、授業力をさらに磨いていく。</p>
	後期	<p>引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、専攻固有科目、特に教科に関する科目や教職に関する科目として指定された特論を選択履修して、児童学の教科専門性を高めていく。教員になった1年目から教師としての諸能力を発揮できるとともに、その能力を生涯にわたり伸ばし続けることのできる教師として巣立つべく、残り半期となった学修計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>修士論文執筆の仕上げ作業を通して、自らの児童学の教科専門性を更に高めていく。</p> <p>特に、指導教員から論文指導を受ける際には、謙虚に傾聴するだけでなく自らが深い問題意識をもって能動的に臨み、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力など、教科専門性以外の部分での実践的な教師力の仕上げを図る。</p> <p>自分の授業を受けることになる園児に対して恥じることのない力を身につけて課程を修了する。</p>

各専攻等の各段階における到達目標

(7) 家政学研究科食物栄養学専攻（中専免（家庭）・高専免（家庭））

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	<p>一種免許取得の際の自己の教職課程履修について振り返りをする。教科に関する科目、教職に関する科目などの学びが十分であったか。不十分な点があるなら、それを今後2年間で補うために、どのような学修が必要か、計画を立てる。特に、教科に関する科目については、基礎科目群、分野科目群の各特論や各演習、実験、さらに特別研究の履修選択に際し、修士論文を視野に入れつつも、教師として不足する点を十分に補えるよう考慮し、食物栄養学各領域についても極端な偏りの無いように配慮する。</p> <p>近い将来に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、基礎科目群、分野科目群の各特論や各演習、中でも家庭の教科の関する科目として指定された特論や特別研究の受講の際には、食物栄養学の教科専門性を可能な限り引き上げる。演習の履修に際しては、自らが教壇に立つ授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とし、また議論にも積極的に参加して言語運用能力を向上させて、実践的な授業力を高めていく。</p>
	後期	<p>前期に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、基礎科目群、分野科目群の各特論や各演習、特別研究を選択受講して、家庭科の教科専門性を高めていく。1 年次前期の学修を通じて、前期にたてた計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>近い将来に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、基礎科目群、分野科目群の各特論や各演習、中でも家庭の教科の関する科目として指定された特論や特別研究の受講の際に、家庭科の教科専門性を可能な限り引き上げる一方で、演習の履修に際しては、教科専門性に加えて、授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とも捉え、また議論にも積極的に参加して、実践的な言語運用能力を高め、授業力を磨いていく。</p>
2 年次	前期	<p>前年度に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、基礎科目群、分野科目群の各特論や各演習、各実験さらに特別研究を選択履修して、家庭科の教科専門性を高めていく。1 年次の学修の振り返りを通じて、入学時にたてた計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>1 年後に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、基礎科目群、分野科目群の各特論や各演習、中でも家庭の教科の関する科目として指定された特論や特別研究の受講の際に、家庭科の教科専門性を可能な限り引き上げるとともに、演習の履修に際しては、教科専門性に加え、授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とも捉え、また議論にも積極的に参加して、実践的な言語運用能力を高め、授業力をさらに磨いていく。</p>
	後期	<p>引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、基礎科目群、分野科目群の各特論や各演習、特別研究を選択履修して、家庭科の教科専門性を高めていく。教員になった1 年目から教師としての諸能力を発揮できるとともに、その能力を生涯にわたり伸ばし続けることのできる教師として巣立つべく、残り半期となった学修計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>修士論文執筆の仕上げ作業を通して、自らの家庭科の教科専門性を更に高めていく。</p> <p>特に、指導教員から論文指導を受ける際には、謙虚に受けるだけでなく自らが深い問</p>

		<p>題意識をもって能動的に臨み、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力など、教科専門性以外の部分での実践的な教師力の仕上げを図る。</p> <p>自分の授業を受けることになる生徒に対して恥じることのない力を身につけて課程を修了する。</p>
--	--	---

各専攻等の各段階における到達目標

(8) 家政学研究科生活造形学専攻（中専免（家庭）・高専免（家庭））

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	<p>一種免許取得の際の自己の教職課程履修について振り返りをする。教科に関する科目、教職に関する科目などの学びが十分であったか。不十分な点があるなら、それを今後2年間で補うために、どのような学修が必要か、計画を立てる。特に、造形意匠学、アパレル造形学、空間造形学の特論や演習、特別研究、特別実験の履修選択に際し、修士論文を視野に入れつつも、教師として不足する点を十分に補えるよう考慮する。</p> <p>近い将来に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、造形意匠学、アパレル造形学、空間造形学の特論や演習、特別研究、特別実験、中でも家庭の教科に関する科目として指定された特論や特別研究の受講の際に教科専門性を可能な限り高めるとともに、演習の履修に際しては、自らが教壇に立つ授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とし、また議論にも積極的に参加して言語運用能力を向上させて、実践的な授業力を高めていく。</p>
	後期	<p>前期に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、造形意匠学、アパレル造形学、空間造形学の特論や演習、特別研究、特別実験を選択受講して、家庭科の教科専門性を高めていく。1年次前期の学修を通じて、前期にたてた計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>近い将来に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、造形意匠学、アパレル造形学、空間造形学の特論や演習、特別研究、特別実験、中でも家庭の教科に関する科目として指定された特論や特別研究の受講の際に、家庭科の教科専門性を可能な限り引き上げるとともに、演習の履修に際しては、教科専門性に加えて、授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とも捉え、また議論にも積極的に参加して、実践的な言語運用能力を高め、授業力をさらに磨いていく。</p>
2 年次	前期	<p>前年度に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、造形意匠学、アパレル造形学、空間造形学の特論や演習、特別研究、特別実験を選択履修して、家庭科の教科専門性を高めていく。1年次の学修の振り返りを通じて、入学時にたてた計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>1年後に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、造形意匠学、アパレル造形学、空間造形学の特論や演習、特別研究、特別実験、中でも家庭の教科に関する科目として指定された特論や特別研究の受講の際に、家庭科の教科専門性を可能な限り引き上げる一方で、演習の履修に際しては、教科専門性に加え、授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とも捉え、また議論にも積極的に参加して、実践的な言語運用能力を高め、授業力を磨いていく。</p>

	後期	<p>引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、造形意匠学、アパレル造形学、空間造形学の特論や演習、特別研究、特別実験を選択履修して、家庭科の教科専門性を高めていく。教員になった1年目から教師としての諸能力を発揮できるとともに、その能力を生涯にわたり伸ばし続けることのできる教師として巣立つべく、残り半期となった学修計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>修士論文執筆の仕上げ作業を通して、自らの家庭科の教科専門性を更に高めていく。</p> <p>特に、指導教員から論文指導を受ける際には、謙虚に受けるだけでなく自らが深い問題意識をもって能動的に臨み、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力など、家庭科の教科専門性以外の部分での実践的な教師力の仕上げを図る。</p> <p>自分の授業を受けることになる生徒に対して恥じることのない力を身につけて課程を修了する。</p>
--	----	---

各専攻等の各段階における到達目標

(9) 現代社会研究科公共圏創成専攻（中専免（社会）・高専免（公民））

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	<p>一種免許取得の際の自己の教職課程履修について振り返りをする。教科に関する科目、教職に関する科目などが、十分な学びであったか。不十分な点があるなら、それを今後2年間で補うために、どのような学修が必要か、計画を立てる。特に、基幹科目、共通科目、研究発展科目については、研究や特別研究の履修選択に際し、修士論文を視野に入れつつも、教師として不足する点を十分に補えるよう考慮する。</p> <p>基幹科目、共通科目、研究発展科目の、研究や特別研究、中でも公民及び社会の教科に関する科目として指定された研究や特別研究の履修に際しては、自らが教壇に立つ授業を想定しつつ、社会科や公民科の教科専門性を可能な限り引き上げるとともに、プレゼンテーション能力向上の機会とし、また議論にも積極的に参加して言語運用能力を向上させて、実践的な授業力を高めていく。</p>
	後期	<p>前期に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、基幹科目、共通科目、研究発展科目から選択受講して、教科専門性を高めていく。1年次前期の学修を通じて、前期にたてた計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>近い将来に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、基幹科目、共通科目、研究発展科目の、研究や特別研究、中でも公民及び社会の教科に関する科目として指定された研究や特別研究の履修に際しては、社会科や公民科の教科専門性を可能な限り引き上げるとともに、プレゼンテーション能力向上の機会とし、また議論にも積極的に参加して言語運用能力を向上させて、実践的な授業力をさらに高めていく。</p>
2 年次	前期	<p>前年度に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、基幹科目、共通科目、研究発展科目から選択履修して、教科専門性を高めていく。1年次の学修の振り返りを通じて、入学時にたてた計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>1年後に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、基幹科目、共通科目、研究発展科目の、研究や特別研究、中でも公民及び社会の教科に関する科目として指定された研</p>

		<p>究や特別研究の履修に際しては、社会科や公民科の教科専門性を可能な限り引き上げるとともに、プレゼンテーション能力向上の機会とし、また議論にも積極的に参加して言語運用能力を向上させて、実践的な授業力をさらに高めていく。</p>
	後期	<p>引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、基幹科目、共通科目、研究発展科目、中でも公民及び社会の教科に関する科目として指定された研究や特別研究から選択履修して、公民科や社会科の教科専門性を高めていく。教員になった1年目から教師としての諸能力を発揮できるとともに、その能力を生涯にわたり伸ばし続けることのできる教師として巣立つべく、残り半期となった学修計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>修士論文執筆の仕上げ作業を通して、自らの公民科や社会科の教科専門性を更に高めていく。</p> <p>特に、指導教員から論文指導を受ける際には、謙虚に傾聴するだけでなく自らが深い問題意識をもって能動的に議論に臨み、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力など、教科専門性以外の部分での実践的な教師力の仕上げを図る。</p> <p>自分の授業を受けることになる生徒に対して恥じることのない力を身につけて課程を修了する。</p>